

各事例シートの読み方に関する解説

1,2 ページ目：事業展開に関するストーリー

大量生産・大量消費・大量廃棄という一方通行の経済システムから脱却し、産業廃棄物等をリサイクル資源と捉え、あらゆるプロセスにおいて効率的・循環的な利用を図りながら、新たな価値創出につなげた事業展開のストーリーとして、写真や図を交えて整理。

・事例のポイント（要約）

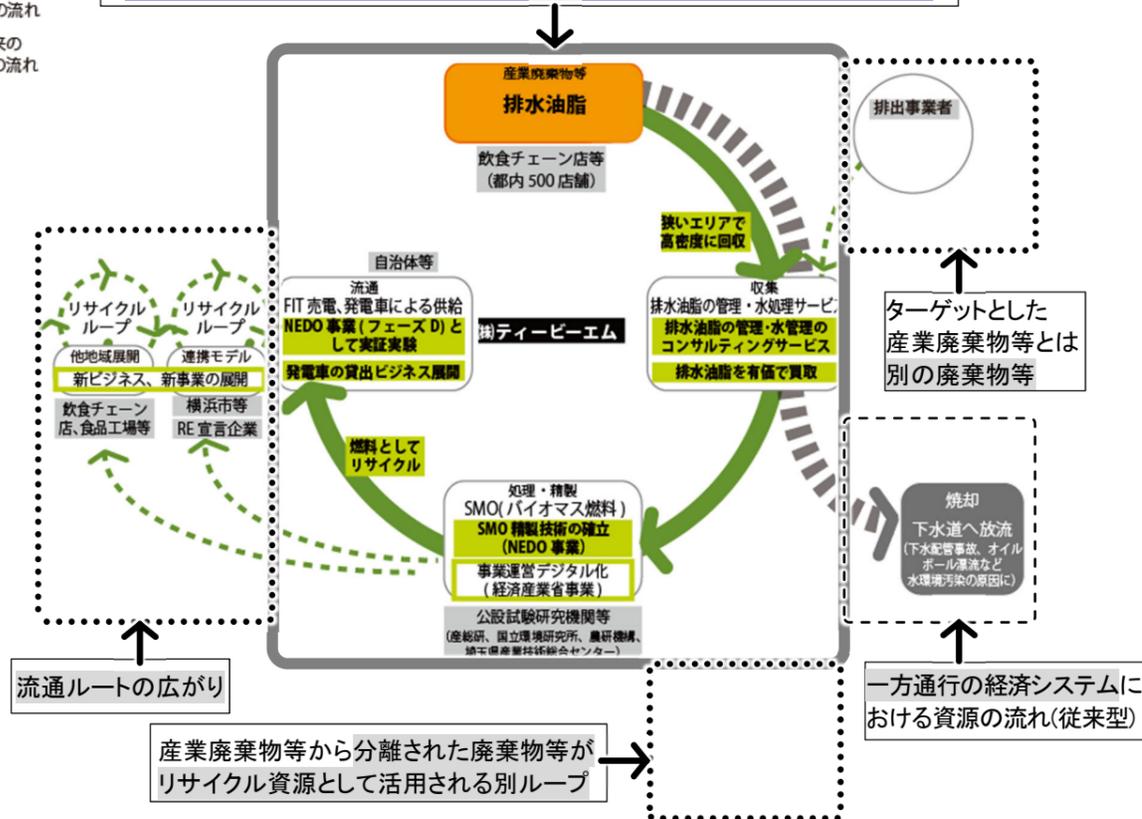
- 取組に至った経緯・きっかけ
- 事業・採用システムの概要
- 事業を構築する上でのポイント
- 事業推進に向けた今後の展望、課題

3 ページ目：事例におけるサーキュラー・エコノミーの枠組み（資源の流れ、取組ポイント）

「循環経済ビジョン 2020」における循環経済の概説のイメージ図（次頁）にならない、事例におけるリサイクル資源の効率的・循環的な利用や新たな価値創造の流れについて、構築するリサイクル・ループ等の広がりや、従来型の資源の流れも含めて図式化。また、事業者が流れにおいてどのような創意工夫を行ったか（=取組ポイント）をプロットすることで、サーキュラー・エコノミーの枠組みを整理し、解説。

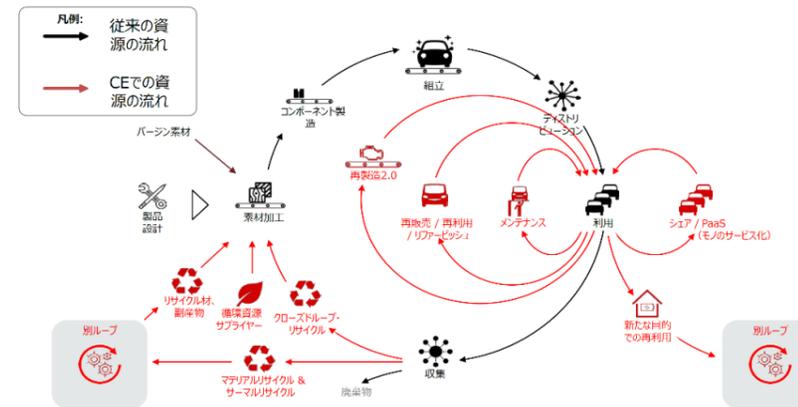
- ポイント** 取組ポイント
- 展開** 今後の展開・課題
- > 従来の資源の流れ
- 事例における資源の流れ
- > 従来の資源の流れ

ターゲットとする産業廃棄物等がリサイクル資源として有効活用されるまでの流れ
収集 → 処理・生成 → リサイクルの「出口」(需要家が利用する資源) → 流通



「循環経済ビジョン 2020」における循環経済の概説

- ・線形経済：大量生産・大量消費・大量廃棄の一方通行の経済
 ※調達、生産、消費、廃棄といった流れが一方の経済システム ('take-make-consume-throw away' pattern)
- ・循環経済：あらゆる段階で資源の効率的・循環的な利用を図りつつ、付加価値の最大化を図る経済



引用元：経済産業省「循環経済ビジョン 2020」（2020年5月）

4 ページ目：サーキュラー・エコノミーへのシフトチェンジのポイント、コラム

サーキュラー・エコノミーへのシフトチェンジのポイント

各事例において、サーキュラー・エコノミーを形成していく上でのポイントについて、事業が発展する3つのステップ別に整理。

ステップ1 きっかけ	処理したい産業廃棄物	事例の実施主体が適正処理・リサイクルを図りたい産業廃棄物等
	事業を動かす力、思い	新しい状況や展開を生み出し、サーキュラー・エコノミーを形成していく上で欠かせない、事業者の思いや関連する政策
ステップ2 かたちにする	チーム編成	適正処理・リサイクルを進める過程で参加された主体とそれぞれの役割分担
	サーキュラー・エコノミー構築の工夫	リサイクル資源としての効率的・循環的な利用、取組を通じた新たな価値の創造につなげるための創意工夫
	採用した技術	産業廃棄物等が適正処理・リサイクルされるためのコア技術
ステップ3 成果と将来展望	新ビジネス、事業の展開	収益確保、ブランディング、SDGs 経営・ESG 投資、新事業展開など、経済的価値をもたらした成果（将来展望も含む）
	社会課題の解決	産業廃棄物等の適正処理・リサイクルに加え、環境問題解決、地方創生・地域貢献、作業環境改善など、社会課題を解決した成果

コラム

事例で取り扱う産業廃棄物等に関する社会的問題やトピックス、関わりの深い法制度について開設。

- 下水道から流れる油が原因で発生するオイルボールの影響 / 養父市 中山間農業改革特区
- 産業廃棄物と一般廃棄物の一括処理（あわせ産廃） / 産業廃棄物処理業者が推し進める災害廃棄物対策
- ローカル 10,000 プロジェクト（地域経済循環創造事業交付金） / 産業廃棄物の広域認定制度
- 廃石膏ボードのリサイクルの状況 / 日本国内における太陽光パネルの排出量の推計
- ESG 投資 / 世界各国における廃プラスチックの輸入規制の動向